

様式 3

会 議 録

会議名 (審議会等名)	第 5 回 次世代に引き継ぐ 淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会			
事務局 (担当課)	都市計画課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 4 7 (直通)		
	生涯学習課	電話 0 4 2 - 7 6 9 - 8 2 8 7 (直通)		
	公園課	電話 0 4 2 - 7 0 7 - 7 0 2 2 (直通)		
開催日時	令和元年 8 月 3 1 日 (土) 午前 9 時 3 0 分 ~ 正午			
開催場所	プロミティふちのベビル 2 階 A B 会議室			
出席者	市民検討会 委員	2 2 人 ( 1 2 ページのとおり )		
	有識者協 議会委員	6 人 ( 1 2 ページのとおり )		
	その他	1 1 人 ( 各施設担当者 )		
	事務局	1 4 人 ( 都市計画課長、生涯学習課長、公園課長他 1 1 人 )		
	運営・検討支 援業務受託者	6 人 ( セントラルコンサルタント株式会社 )		
公開の可否	可	不可	一部不可	傍聴者数 6 人
公開不可・一部 不可の場合は、 その理由				
会議次第	1 開会あいさつ 2 グループワーク・発表 3 その他			

## 審 議 経 過

主な内容は次のとおり。

## 1 経 過

公園課長による開会の後、要綱第5条第3項の規定に基づき、有識者協議会鈴木会長の進行のもと傍聴の確認を行い、今回の市民検討会での検討内容や検討の進捗状況、今後オープンハウスやアンケートの実施を予定していることなどを説明した後、グループワークを行った。なお、会議冒頭に委員から検討会の今後の進め方について意見交換する機会を設けてほしいとの要望があった。

## 2 議 事

## (1) 会議冒頭の委員からの提案

グループワーク開始前に、次回の検討会において検討会の今後の進め方について、意見交換する機会を設けてほしいとの要望があった。本要望について、有識者協議会及び事務局は了承し、次回の検討会でそのような機会を設けることとなった。

## (2) グループワーク

まちづくり、公共施設、公園の3つのワーキンググループごとに第4回市民検討会の現状分析によって明らかになった課題を解決するためのアイデアについてグループワークを行った。各グループでの意見及び有識者協議会の委員の講評は次のとおり。

## &lt; Aグループ &gt;

テーマ：淵野辺駅南口周辺の課題を解決するためにはどうしたらよいか？

- ・まち全体について、商業地域や住宅地域は現状のまま守っていきたい、一方で交通の面では改善すべきところがある。
- ・生活利便性について、公共施設に対して、青少年学習センターまで含めるのは無理がある。もし移設するなら矢部の地域の子どもの居場所機能を用意する必要がある。
- ・交通利便性について、公共交通機関に対して、コミュニティバスの路線は正しいのか、利用者のニーズに変化があるようなので、路線の見直しをした方が良い。
- ・駐輪場・放置自転車について、駅近くの駐輪場が足りていないので増やしても良い、駅前駐輪場の強化をする、シェア自転車を導入する。
- ・駐車場について、駐車場が少ない、鹿沼公園の駐車場を有料化する。
- ・居住環境について、現在の居住環境の保全、空き家が多いため用途地域の変更や人口減少のためマンション等の規制をかける。

- ・他の視点として、一時的な住民（学生）が町内会活動などのまちづくりに参加できるようにする。
- ・景観について、鹿沼公園などの自然に対して、継続的に緑の手入れや保全を行い、緑を減らさないようにする、健康年齢を上げるため公園にストレッチ等ができる場所を作る。
- ・まちなみ景観について、駅前にある店の看板等の色・大きさ・フォントを落ち着いた感じになるように規制をする、電柱（電線）の地中化で景観を良くする。
- ・他の視点について、境川・淵野辺公園までの散策ルートを整備したい。
- ・安全・安心について、安全な歩行者空間に対して、歩行空間の整備や電柱を無くす、通学路・自転車の多い道路や駅前への交通整理員の配置、自転車利用者へのマナーの啓発、北口と南口の移動のバリアフリー化をする。
- ・防災や防犯（地域のネットワークなどソフト含む）について、木の手入れをすれば景観・視野が広くなり防犯にもつながる、電灯をLED化する。
- ・その他について、外国人の増加に対して、国際交流ラウンジはもっと目立たせて出入りしやすいものにした方が良い。
- ・他の視点として、学校の行事案内が何となく北口で止まっているイメージがあるので広報のやり方を何とかしてほしい。

#### < Bグループ >

テーマ：Aグループと同様

- ・まちのイメージ（コンセプト）について、生活に便利なまち、歩きと自転車中心のまち、流動性の少ないまち（安定したまち）といった意見が出た。
- ・生活利便性について、公共施設に対して、公民館の利用団体が多いのもう一つ欲しい（交流スペース、コミュニティスペース）、公民館や図書館（雨漏り）等の直近の問題も解決すべき。
- ・交通利便性について、公共交通機関に対して、高齢者が増加するため病院へ行きやすい交通機関整備が必要、無料のコミュニティバスやコミュニティバスの運行継続が必要。高齢化を見据えて運行時間を柔軟にして市民の足を確保する、駅前広場をもう少し広く、共和小学校までが遠いためスクールバスを導入する。
- ・駐輪場・放置自転車について、駅の地下に駐輪場を設置（事故が起きにくい）、放置自転車の原因にもなるため駐輪場の建て替えをして台数を増やす、駐輪場を離れた場所に設置して分散させる。
- ・駐車場について、公園・公民館・図書館の駐車場の有料化と駐車台数の増設、2階立体駐車場にする。
- ・景観について、鹿沼公園などの自然に対して、木の専門家の育成、小さな子どもが遊べる池があると楽しい。

- ・まちなみ景観について、まち全体の老木化が感じられるため植え替えをして景観を良くする、イチョウなど根が交通の妨げになっている。
- ・安全・安心について、安全な歩行者空間に対して、夜間に若者がいると怖いので防犯カメラを増やしてほしい、自転車や歩行者など動線が重なる危険な場所へ交番を移転する、全体的な歩道の整備（点字ブロックや舗装も粗い）、交通の妨げになっている電柱（電線）の地中化、公園周辺の道路を拡張する。
- ・防災や防犯（地域のネットワークなどソフト含む）について、市のひばり放送が聞きづらいため放送塔の位置検討、ナイトウォーク（ランニングや火の用心など）の実施、単位自治会合同の防災訓練の企画、小・中・高の授業でハザードマップの作成。
- ・その他について、北口と南口のネットワーク（自転車や車いす）として、北口と南口を行きやすくする必要がある。

#### < C・D合同グループ >

両グループの出席が少なかったため、CとDが合同でグループワークを行った。  
 テーマ：公共施設をよくするためのアイデア

- ・市立図書館について、サービスの維持・向上として、使用目的が自由な有料のワーキングスペースの導入、本を読める場所が少ないためどこでも持ち出せるようにする、図書量が少ないため開架スペース以外にも本を置く、開館時間の繰り上げ、レファレンスコーナー前のスペースの整理、子どもたちが遊びながら絵本などに親しめる場所を整備する。
- ・将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、室内だけでなく室外から続くスペースがあると良い、利用者が増えるような魅力を作る、読み聞かせ等の充実と読み聞かせボランティアの育成、修繕より新たな施設を作る、親子でも気軽に利用できるカフェ的な施設の整備、小さい頃から本に親しむ教育をすることが必要。
- ・その他について、大和市のシリウスや武蔵野市の武蔵野プレイスの有料ラウンジは良い施設で、稼ぐ仕組みづくりがある。
- ・視聴覚ライブラリーについて、サービスの維持・向上として、目的（教育、個人、制作）に合った設備や内容を充実させる。
- ・大野北公民館について、サービスの維持・向上として、公民館にも音を出せる部屋が欲しい、他地域からの利用も多く部屋を取りづらいため利用制限をしてはどうか。
- ・将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、フロアが狭いためフロアの拡張、新設もしくは複合化の実施、音楽等のホールがないため必要、諸設備が古いため更新もしくは新設する。

- ・大野北まちづくりセンターについて、サービスの維持・向上として、まちづくりセンター窓口の予約管理システムを導入する。
- ・将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、書類発行の待ち時間が長い場合気持ちよく過ごせる場所が必要。
- ・青少年学習センターについて、サービスの維持・向上として、音の出せる部屋はたくさんあった方がよい。
- ・将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、ダンスの練習ができるよう鏡のある部屋があるとよい（現在は可動式しかない）、ホールや多目的室など活動を発表できる場所はあった方がよい。
- ・国際交流ラウンジについて、サービスの維持・向上として、国際交流ラウンジを図書館と統合、外国人が増加するというこれからの傾向を踏まえると国際交流ラウンジは少なくとも各区に必要（現在は1つしかない）、利用人数が少ないため市に転入時に周知が必要。
- ・将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、防災機能の付与や、現在はボランティアで成立しているため、人的活用の話ではあるが、できるだけ有償にして活動を増やす。
- ・あさひ児童館について、サービスの維持・向上として、児童館に学童の機能を持たせて鹿沼公園へ移転する。
- ・将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、あさひ児童館は庭がなく、リース代が年間450万ということなので、鹿沼公園の中にあった方がよい。
- ・自転車駐車場について、将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、自転車駐車場は駅に近い方がよい。
- ・公共施設全体について、サービスの維持・向上として、会議室（図書館、公民館）等の空き状況のオンライン管理、公共施設は誰でも利用でき必要な時に必要な援助が得られる所である特性上、魅力的という観点と合理的という観点は結び付かない、駐車場は必須で無料か安い方がよい、老朽化のための修繕では新しい機能に対応できない、ICTを活用した省力化や省人化、利用者の時間節約と適切な人材の配置と育成、職員のコミュニケーションを活性化できる職場配置、利用者を意識した空間づくり、利用目的を意識した空間づくり、目的フリーの空間設置、市民の参加、環境との調和（まちの雰囲気、地の利など）があげられた。
- ・将来にわたり多くの人に喜ばれる施設とするためには、外からでもどのような施設か分かるようにする、駐車場（図書館・鹿沼公園）の統合、子どもから大人まで交流できるようなスペースが全体的にあるとよい（カフェ、イスやテーブルを工夫する）、世代交流できないため子どもと大人がとなりあって活動できる場所の設置、公民館は生きがいなので有料にしないでほしい。

## &lt; Eグループ &gt;

テーマ：公園の機能をより良くするためのアイデア出し

- ・防災性向上効果について、キーワードは、周辺の避難ルートの確保、外周の見通し確保。アイデアについては、避難場所として避難ルートの確保、防災施設としては公園としての避難施設は特に不要、防火帯の設置、野球場のフェンスが避難の妨げ、防災施設とした場合に出入り口の位置や幅などに問題がないか。防犯施設としては外周の見通しを良くするため樹木の伐採と木材の再利用。
- ・環境維持・改善効果について、キーワードは、池を残したい、水質改善は今後の課題。アイデアについては、白鳥池は残すが水質は課題。
- ・健康・レクリエーション空間提供効果について、キーワードは、野球場の多目的利用（フリースペース）。アイデアについては、野球場は現状として狭い、周辺への気遣いが必要、市内の野球場は減っているため電車で来られる野球場、他の場所に野球場を移すのは可、他のイベントへの利用も可。フリースペースとして利用可能な空間にする。
- ・景観形成効果について、キーワードは、水生植物池の転換。アイデアについては、築山を水生植物池側に移せばよい、水生植物池は別の施設に転換して近隣住民に配慮したものにする。
- ・文化伝承効果について、キーワードは、S LのD 5 2は残したい。アイデアについては、S LのD 5 2は公園のシンボルであるため必要。
- ・子育て・教育効果について、キーワードは、交通公園は形が変わるとしても必ず残す。アイデアについては、形は変わるとしても残す。
- ・コミュニティ形成効果について、キーワードは、休憩スペース（いす等）を増やしたい。アイデアについては、水生植物池の休憩施設への転換、管理棟と休憩施設の兼用。
- ・観光振興効果について、キーワードは、遠方から人を呼ぶより市民が楽しめることをメインにしたい。
- ・その他のアイデアについて、自転車動線は外周に設置、利用ルールの徹底、駅の正面に公園入口といった意見があった。

## &lt; Fグループ &gt;

テーマ：Eグループと同様

- ・防災性向上効果について、キーワードは、安全・安心、オープンスペース確保、災害拠点（避難）。アイデアについては、防災広場として避難のために野球場は有効、防災施設としては防災機能を備えたカフェを設置、防犯施設としては入口の噴水をライトアップする。
- ・環境維持・改善効果について、キーワードは、既存施設の質の向上、適正な維持

管理（池の水質、樹木活用）。アイデアについては、白鳥池は土砂をさらって水質改善、植栽は既存の樹木を生かす（枯葉の活用）。

- ・健康・レクリエーション空間提供効果について、キーワードは、現状維持、有効活用、残地利用。アイデアについては、軟式野球場は冬でも一部開放（広場化）する。その他に、空いたところでスリーオンスリー（3対3のバスケットボール）はできる。
- ・景観形成効果について、キーワードは、池、樹木、交通公園を維持。アイデアについては、白鳥池と交通公園は特徴（メイン）といった意見があった。
- ・文化伝承効果について、キーワードは、公園を代表するS LのD 5 2の有効活用、でいらぼっち伝説。
- ・子育て・教育効果について、キーワードは、自然を生かす、児童館は公園内にあって良い。アイデアについては、交通広場としては広場に多目的に利用できるコンテナを設置、遊具広場としては児童館を公園内に設置する。
- ・コミュニティ形成効果について、キーワードは、カフェ/防災拠点整備。アイデアについては、日常的にはカフェや集会で災害時は災害拠点となる。
- ・観光振興効果について、キーワードは、来訪者の維持。
- ・その他について、キーワードは、駐車場地下+上部活用（集約化）、自転車との関連が重要、公園エリアの拡大、駅前通りにもぎわいがあげられた。アイデアについては、駐車場としては地下に設置して上部は建物（図書館の場所が良い）、公園エリアの拡大（図書館の土地を含む施設の集約化）、駐輪場としては自転車道を整備、交通ルールを学ぶ場として横断歩道を設置。その他には、公園と公共施設が一体的に見える、駅前通りに滞留空間を設置。

#### <各グループ発表後の意見交換及び感想>

- ・公園WGの委員から事務局に対して、JR淵野辺駅に駅ビルをつくるなどの話はあるか、また、まちづくりWGに対して、南口周辺地域と北口周辺地域の役割をどのように考えているのか質問があった。

まちづくりWGの委員から、南口のことを考える際に北口を切り離して考えることはできないという認識であり、そのため、北口と南口との行き来の意見が出ている。個人的な意見として北口は商業地域、南口は住宅地という現在の役割は今後も変えたくないと思うが、WG内でのコンセンサスはとっていない、という回答があった。

事務局から委員に対して、現在、駅ビルの計画は無いと回答した。

- ・公園WGの委員から公共施設WGに対して、青少年学習センターを現在の場所から淵野辺方面へ移動させるべきなのか、現在の場所にあるべきなのかどのように考えているのか質問があった。

公共施設WGの委員から、具体的に移転の話はしていないが、今後も機能としてはあった方がよいという意見は出ている。また、公民館と現状で使われている機能が重複している部分があるので近くにあった方がよいという意見や、全体としては複合化という意見もあるが、青少年学習センターをどうするかまでの議論にはなっていないという回答があった。

- ・まちづくりWGの委員から、まちづくりWGでは公園に対する意見が多く出てきたが、例えば、公園を作り変えるということになった場合には公園だけではなく周辺の人や自動車の流れや道路整備なども考える必要があり、公園WGだけでは検討は難しいし、これからみんなで検討するべきことであるという意見があった。

#### < 講 評 >

##### ・ 押田委員

全体の発表並びに私が参加したEグループの中での検討を見て思ったことは、個別の話し合い、ワークショップとはいえ、大分全体像が見えてきている中での話し合いに転じてきているのを非常に強く感じた。Eグループの中で、今回よく出てきたのは、例えば、利用者の属性や周辺との関係、特に外周道路やエントランスの話など。話し合いの中でうまく煮詰められなかったので、発表では出なかったが、周辺の道路をどう車が通るから外周を通さなければいけないというような、かなり綿密で、周辺も同時に配慮した話も出ている。

この話にとどまらず、まちづくりを念頭に置いて詳細計画を練っており、次回以降に多くの方が多分まちのことを考えてそれぞれの計画を立てたいと思っているので、うまくその辺をシャッフルできたらなということを強く感じた会になった。

##### ・ 小島委員

先ほどの押田先生のご意見と私もちょっと似たところがあって、前回の公園の魅力と、改善したほうがいいよねというアイデアを、今回は効果、機能であるとか、施設に落とし込んだときに、では、どこをどうしたらいいのかというところまで話が進んだと思う。個別の話になってくると、どうしても全体の話というものが隠れてしまうのではないかと私も少し思ったのだが、実は、ここの公園のリニューアルのアイデアの中では、オープンスペースをもっと増やして、交流だとか、避難スペースを何とか増やしましょうだとか、いろいろ個別の中で、こういう方向性でこの公園をリニューアルしていきましょうみたいな、コンセプトに近いようなものが見え隠れしてきたのではないかと思う。それが公園の中だけではなくて、駅からのアプローチも含めて。駅を降りたらすぐ公園が感じられるとか、周辺の公共施設を取り込んで1個の公園にしてしまえとか、アグレッシブな意見

がたくさん出ていて、公園だけではなくて、淵野辺のまちづくりに少しじわじわっと広がっていったような議論がされていたような印象がある。

これからまた公園、公共施設、まちづくりというように議論が深まっていくと思うのだが、それぞれのワーキングのアイデアがどこかでフィックスして、最終的に淵野辺の次世代につながるまちづくりのイメージみたいなものに集約されるといいのではないかと、というような感想をもった。

・山本委員

まちづくりの班の話を聞いて、あるいは、ほかの班の話を聞いて本当に思ったのは、皆さんの淵野辺に対する満足度が高い、これはすごく感じた。この満足度が高い中で、ここのまちづくりの班でも、生活に便利なまちだよ、住みやすいまちだよという意見が共通して出ていた。

ただ、全部が全部いいわけではないということ。要するに、総論はいいけれども、各論的にはまだ課題がある。例えば、いいところでいうと住宅、これは住みやすいよね。それから商業、ほどほどあっていいと。北口へ行けばあるし、ただ、それだけでまちはできないよねというところがあって、例えば、商業も住宅も今のまま守ってほしい、安定のまちと出されているが、この安定とか現状維持は結構難しい。まちづくりをやっていると思うが、開発は、ある意味、民間投資とか公共投資でばんと進めやすい。衰退は放っておけばするから、衰退はしやすい。横ばいはすごく難しい。だから、横ばいをどうするかというのが課題かと感じた。

あと、もう1つ課題として出てきたのが、自転車、歩道。歩くのと自転車が基本のまちだというのが、この淵野辺駅南口だというようにいろいろ話が出た。特に北口との行き来。これはA班もB班も同じで、特にB班は意見が出ていたが、やはり動線の問題。例えば、南口の人が買い物は北口に行く。そうすると、自転車で行くのも大変。これから高齢者が増えてくると、その方も大変。それから、障害をもった方も一緒に苦労しているというお話も出ていた。やはりこの辺も解決することが必要なのだろうというように感じている。

そういった課題が出ている中で、満足度が高い淵野辺であっても、課題としてはまだまだあると。この各論のところをいかに解決していくのか。あと、総論のところも、先ほど申し上げたが、維持をするというのは決して容易ではない。だから、これから全体で議論をすると思うが、もしそういう方向を打ち出すのであればどのようにするのかという知恵をいっぱい出していかなければと思っています。

そして、知恵だけではなくて、実際、労力も出していかなければいけない。まちづくりというのは人任せではできないから、自分たちで実践してみるということ。お金も、ない袖は振れないので、それも考えていかなければいけないという

ことで、そういうことを、今回はお話を聞いていて感じたところである。  
次回に向けたいい土台、議論ができたまちづくり班だったと感じている。

・野口委員

公共施設、今回は前回の課題から、それをもとにして、どうやったらそれを解決できるのか、よくなるのかというアイデア出しをした。ソフトの面、ハードの面、いろいろ解決のアイデアが出たが、何となく合理的だったり利便的なものを考えていくと、再編というものがいいのではないかという意見もちらほら出た。

利便的とか、合理的とか、効率化ということももちろんそうなのだが、私が話を聞いていて思ったのが、単純に再編したり、ある施設をくっつけたりすると楽しそうというのが正直な感想。子どものための施設の隣で大人が活動するスペースがあると。そこから子どもの活動が見えてくる。何かそういう豊かな生活が見えてきたというのが私の個人的な感想である。

合理的、効率的というのはもちろん考えなければいけないのだが、恐らく、今ある施設というのも、できた当時は、そのときのニーズ、そのときの合理性、そのときの利便性に合わせてできたと思う。ただ、何十年後に、いろいろ問題が出てきている。それはなぜかと考えると、やはりその時点の使いやすさ、今現状の使い勝手だけを考えていくと、こういうことになってしまう。なので、今考えている、こう使いたいとか、こういうものがあつたほうがいいというのは、果たして10年後、20年後、30年後も同じ思いであるのかということを考える責任があると思う。

皆さんに、ぜひ考えてほしいのは、今、満足する以上に、10年後、20年後、自分たちのまさに次世代のこと。次世代の人たちにとっても豊かなものであるのかどうかということをいま一度考える必要があるのかと思った。

・小山委員

公共施設は、皆さんと一緒に回ったように8施設を一挙に検討しているということで、かなり複雑な議論を行わざるを得ないという状況であるが、皆さんの様々なご意見を伺っていると、共通する部分もたくさんあると感じている。

その中で私は今回2つ思っていて、1つは、環境という言葉がキーワードになるのかなと感じた。その環境というのは、まちづくりでも、あるいは公園でもそうなのだが、例えば、公共施設でいくなれば、その場所をどのように使うのかという目的みたいなものは、その人たちの教育環境であるかもしれないし、人々、市民の活動、そのための環境であるのかもしれない。そのための環境を施設としてどのように用意するのか、実現するのかということがまず1つある。と同時に、先ほど、青少年学習センターの場所の話があつたが、それがどこにあるのか。

地の利の話もまた重要な視点なのかと考える。その意味では、まちづくりのグループで、そういった施設の配置がどうなのかということは出たかもしれないが、このあたりもまた全体として考えていかななくてはいけないのだろうなということを皆さんのご発表を伺っていて思った。

もう1つの視点は、特に公共施設に共通することなのかもしれないが、職員を含めて、そこで働く人々のつながりというものをどのように物理的に、空間的に、あるいは論理的にといったらいいのか、配置をしたり、実現するためのネットワークをつくっていくのかといったようなこと。そうすると、単純に複合化みたいな話になってしまうのだが、そうではない解決策みたいなものもあったりするかなと思うので、縦横、あるいは斜めの系を通しながら、公共施設のありようをこの地域でどう実現していくのかということを皆さんと一緒にこれからも考えてみたいと思う。

### 3 その他

事務局より、次回の第6回市民検討会は10月7日(月)の夜の開催を予定しており、詳細については、決まり次第お知らせする旨を伝えた。

以上

出 欠 席 名 簿

まちづくりワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯田 秀雄	出席
飯高 千里	欠席
植田 憲司	出席
茅 弘秋	出席
今 美和子	出席
佐野 玲希	出席
白石 一郎	出席
畑 耕一	出席
山林 亮太	出席
渡辺 章	出席

公共施設ワーキンググループ

氏 名	出欠席
安達 和夫	出席
内田 清	欠席
太田 裕	出席
小方 明	欠席
小野澤 行雄	出席
佐伯 明美	出席
瀬戸 凌太郎	欠席
高柳 眞木子	欠席
平本 峻	欠席
矢部 裕子	出席

公園ワーキンググループ

氏 名	出欠席
飯沼 容子	欠席
荻野 弓希子	出席
荻原 ますみ	出席
岸本 孝史	欠席
山口 清孝	出席
城田 大介	出席
狭間 宏明	出席
北條 幸治	出席
前田 智恵子	出席
山本 有紀	出席

有識者協議会委員

氏 名	出欠席
押田 佳子	出席
小島 仁志	出席
小山 憲司	出席
鈴木 眞理	出席
野口 直人	出席
山口 直也	欠席
山本 匡毅	出席